

第2回 「新たな「京都市動物園構想」の策定」検討会議 議事摘録

日時：平成30年10月17日（水）午前10時～正午

会場：京都市動物園 レクチャールーム

出席者：

【委員】

池田 泰子 市民公募委員
今村 礼子 市民公募委員
澤邊 吉信 岡崎自治連合会会長
中道 正之 大阪大学大学院人間科学研究科教授
福井 亘 京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
藤井 容子 京都岡崎魅力づくり推進協議会 魅力情報発信担当マネージャー
松本 朱実 動物教材研究所 pocket 主宰 甲南大学非常勤講師
森村 成樹 京都大学野生動物研究センター特定准教授
湯本 貴和 京都大学霊長類研究所所長・教授

(欠席)

本多 和夫 平安神宮 宮司

【事務局】

(文化市民局)

文化担当局長 北村 信幸
文化芸術都市推進室長 尾崎 学

(動物園)

園長 片山 博昭
副園長 坂本 英房
総務課長 山本 孝
種の保存展示課長 和田 晴太郎
生き物・学び・研究センター長 田中 正之
総務課庶務係長 牛丸 昭
総務課 岩浅 拓也

(コンサルタント)

株式会社地域計画建築研究所 原田 稔, 三浦 健史

【オブザーバー】

地球温暖化対策課長 安田 真也
環境管理課長 濱口 弘行
公共建築企画課長 古川 吉則
設備企画担当課長 田中 良幸
公共建築企画課課長補佐 樋口 博紀
建築企画第一係長 堀村 清一郎
公共建築企画課 大野 達三
教育委員会学校指導課長 諏佐 準一

進行役あいさつ（動物園総務課長 山本 孝）

- ・本多委員は、間近に迫る時代祭のため、今回欠席である。
- ・本日の会議は公開になっていることについて確認する。

1 開会の挨拶（座長 湯本貴和 京都大学霊長類研究所所長・教授）

- ・前回の私なりのまとめ。「5つの柱と 27 の施策」のような書類は、盛りだくさんになりがちである。現在のヒトモノカネで大丈夫なのか、園の人に負担にならないか、施策を増やすことが良いのかという課題がある。
- ・種数を誇るのは今時の考え方ではない。これからの動物園としてどうすべきか、ということがある。
- ・集客増については、考え方の基礎を固めないといけないだろう。今回、この議題だけで時間を取って議論していただきたい。

2 討議

(1) 第1回検討会議の振り返り及び本園の主要な取組について

坂本副園長

- ・（「現構想の7つのコンセプト～」資料説明
「5つの柱」24から27に増えている。「本園の主要な取組について」最近の取り組みについて）

和田課長

- ・本多委員の意見を紹介する。
 - ・生物多様性の取組は良い。
 - ・イチモンジタナゴの保全はありがたい。平安神宮としても戻すのに協力していきたい。
 - ・動物園の良いところである動物の匂いと大きさは、映像では伝わらない。本物の良さを子供達に伝えて欲しい。
 - ・京都市動物園は観光地として、上位には入っていない。情報検索のサイトへの掲載は影響が大きい。観光ルートに入れば良いと思う。

湯本座長

- ・鹿児島事故について、京都市動物園の考え方を聞きたい。

片山園長

- ・この件については、福井委員も考えを聞きたいとおっしゃっている。鹿児島の平川動物園で、ホワイトタイガーを夕方の時間、グラウンドから寝室へ移動させる際に、本来いてはいけないグラウンドで飼育員とホワイトタイガーがいたことによる。実は京都市動物園でも10年前の6/7にアムールトラによる飼育員の死亡事故を経験している。その際には職員全員が大きなショックを受けた。その後、当園では安全対策をとってきた。一方で今回このような事故が起こったことは、京都市動物園の痛ましい事故を全国に共有できていなかったという客観的事実はあると思う。全国の動物園90園、水族館60園の計150園で協議会を作っており、当園の坂本副園長が全国の安全対策部長を担っている。

坂本副園長

- ・この2年に6件の人身事故が全国で起こっており、うち2件が死亡事故につながっている。情報共有が重要で、全国的に行っていきたい。鹿児島には近々に3名で調査に入る予定である。京都市動物園では、安全対策をコンセプトに入れているが、ハード面での見直しを行って飼育員が錯誤を持たないような配慮をしており、具体的には、猛獣類を部屋から部屋へ移動させるときには、係長が動作を確認するダブルチェックをしている。人は必ずミスを犯すものである。人的コストはかかるが、事故当事者としては、安全対策は守らないといけないと思っている。当園は、安全対策では日本の中では優れている方だと自負しているが、慢心しないようにしている。安全対策は最も重きをおいている事項である。

福井委員

- ・京都市としてコストをかけさせてもらえるという状況なのか。

片山園長

- ・動物園だけの問題ではなく、京都市全体として事故を重く受け止めて対策をとっていかうということで、文化市民局として人的コストをかけること、ダブルチェックについても認めてくれており、命日の日には文化市民局安全の日として、事故現場で多くの職員で確認しあっている。

湯本座長

- ・十分な説明を頂いた。本題に入りたい。上位目標についてだが、私としては「スローガン」は最近はやらないし、言葉としてどうかと思う。地球を学ぶと行っても地球の何を学ぶのか、とも思うが、また書かれていることには内向きのものと外向きのものがあると思うが、例えば食べる楽しみ、買う楽しみはこちらが用意するものであり、市民は享受してもらえればと思う。全体としては外向きのものになっている印象だ。この新構想への意見を委員にお聞きしたい。

藤井委員

- ・座長の意見に全く同意したい。来場者向けのアピールになっているなという印象である。「地球」という言葉はすごく良いと思う。動物をエンターテインメントの対象ではなく生物を見るという視点では良いと思うが、「学ぶ」というのは来場者の視点なので、「スローガン」ではなく「コンセプト」がある方が良い。動物園がこうありたいというビジョン、理念、存在意義、機能ではなく在り方を出す方が良い。学べるというよりも、地球と動物園の関係性をうまく言い当てられる言葉があると良い。

松本委員

- ・学ぶ、学べるという時に「何を」という軸が何か、上位概念を示してもらえると良い。地球を学べるということでは、地球という言葉がぼやっとしているように感じる。一般の人にはかえって遠く感じられるように思う。自分が関われる、自分が学ぶという自動詞の方が良いのではないか。外向きには、一般市民の方が自分が動物園に関わるのだというキャッチコピーが欲しい。また、理念をわかりやすく伝えてもらえればと思う。

湯本座長

- ・キャッチコピーとして短い言葉にする前に作文がいるのではないか。環境問題とか、直面している危機に思いが馳せられるような散文として書いた方が良い。

福井委員

- ・4園館合同で考えたようなテーマと感じた。要旨的なものがある進めたほうが良い。京都市動物園がどのようなかたちで生態系とか生き物をうまく活用しながら環境を学んでもらう園であるべきか、という考え方をもうすこし整理したほうが良い。

池田委員

- ・4園館の連携の可能性を感じている。上の「楽しく学べる」がポイントになるのではないか。些細な質問だが、市民との共汗で作る動物園は、公共施設である以上何でも入ってほしいというものではないはずだが、入ってきてほしい個人、団体について、動物園としてどう考えているか聞きたい。

片山園長

- ・これまでの話をお聞きして、「京都市動物園憲章」として文章化して見せてはどうかと思った。市民との共汗についてだが、当園は115年前に市民の圧倒的な寄付により開園できた。現在も入園料収入とエサ代サポーターというプログラムで、サポーターの方々から10万円の寄付をいただいたりしている。企業では、提案型サポーターというかたちで自社の商品とか力でサポートをいただいている。このように個人、団体からご支援をいただいている実態がある。そういうものを大切にしていきたいという意味での共汗である。今後力を入れて行きたい外国語ガイドについては、大学のまち京都ということを踏まえ、学生の関わりを増やしていきたいと考えている。ボランティアスタッフが45名おり、現在はヤギなどのふれあいコーナーでの限定的な関わりだが、今後は市民の力量をもっと活かさせてもらう形で、本質を外さない限りでの協力を得ていきたい。

池田委員

- ・本質を失うような外部との協働については、京都市動物園は非常に良い状態にあるのではないと思う。生き物・学び・センターが抑えているので大丈夫だとは思う。アンケート結果では、グッズとか買い物について少し評価が良くないため、本質を外した商品を開発したがる人はいるだろう。グッズと地球を学べるということをマッチするようにして、本質を外さないようにしたほうが良い。

田中センター長

- ・いろんな形で寄付や協力の申し出があり、ありがたいと思っている。そのうち、学術的なものについては我々が審査して受け入れの判断をしているが、他のものは総務が審査しているし、動物園全体として審査してお断りや受け入れを行っている。

片山園長

- ・座長、池田委員の心配は、本質を外さない、倫理的なところを大事にすべきとの指摘だと理解している。協賛先の企業が京都市動物園の監修という肩書きを欲しがったりする場合もあるが、共同研究の相談もたくさんあり、きちんと審査している。また、日本動物園水族館協会では、倫理と福祉の総務委員会も機能している。例えば、当園は動物の擬人化は絶対しないこととしており、職員と折に触れ

て確認しあっている。ポスター作成の際にも、動物が吹き出しのコメントをするところまでにしようとしている。

湯本座長

- ・短く絞った標語は必要だと思うが、きちんと書いたものがあって、どういう共汗の仕方があるのか、**基準をきちんと考えておいて欲しいということだ。**

松本委員

- ・市民との共汗についてだが、京都市動物園ほど市民と共同してきた園は無いのではないかと思う。**市民にとっての動物園、私と動物園というテーマで募集してみてもどうか。**実際に利用されている方が何を感じ、期待しているのか、体験の内実を調べているところが少ない。最近、盛岡市動物園では、私の一押しはこれ、などの声が見える化している。今の委員からも京都市動物園のすすめが出せれば良い。

森村委員

- ・全体的な流れは良いと思って見ている。**「安全で安心な動物園」は、人と動物両方のことだろうと思う。**作文を作って見直すときには、安全安心の上に人と動物の文字が付くのかなと思う。もう少し突っ込んでみると、人と動物という単純な二分で良いかということはある。一緒につくるということも大事だろうと思う。
- ・「京都市民が」ということをあまり出しすぎると、京都に住んでいない人という括りが出てしまう。全ての人が入るように、なるべく取りこぼしが無いという心配りが要るのではないか。

湯本座長

- ・「京都市民」といっても、市民はシチズンの意味なので、京都市だけに限るものではないと捉えられる。

中道委員

- ・スローガンについて、**京都市動物園独自のものを考えるのか、どこの動物園にもつながるものなのかはある程度考えておくべきだろう。**
- ・アメリカやヨーロッパの動物園をある程度知っているが、日本の動物園では動物を見ている人が多いのに対し、海外ではその雰囲気を楽しんでいる人が多い。日本でも多摩動物園は雰囲気を楽しむ傾向があるが、京都市動物園では動物を見る人が多い。その点では見やすい展示をすることが中心になる。楽しむこと、散策することが中心ならチラチラ見えるのも良いので、考え方はだいぶ変わるだろう。**既存の状況がある中でどちらの方向に行くのか、考えるべきではないか。**

湯本座長

- ・「見る」だけでなく**「雰囲気を味わう」という視点という重要な指摘だ。**ここに入れ込むには工夫が必要だ。

今村委員

- ・多摩動物園には先週行ってきたが、敷地が広くてここは別の考え方かなと思う。あそこを目指すのは違うのかなと思う。この狭さと密集を活かすという、いい意味で疲れにくいコンパクトさが良い。スローガンについては、地球だと大きくなりすぎるように感じる。身近な地球、箱庭的地球などで、京都市動物園らしさを出せれば良い。「近くて楽しい」はすごく良かった。地理的な近さ、動物との近さ、飼育員や人の近さも感じられる。今のスローガンをブラッシュアップするのも良い。

澤邊委員

- ・「地球」を学べるのは動物園だけではない。
- ・安近短というが、その通りの動物園がここにある。
- ・広さについては変えられないので、フルに活かすことが重要だ。
- ・肌で触れられるのが大事であり、楽しく安全であることが必要だ。
- ・市民との共汗については理解できない。岡崎では何でも共汗と言われている。岡崎にとって動物園は大事な施設だ。地域のお年寄りを利用することを考えて欲しい。お年寄りも汗をかけるのではないか。
- ・地球というと大きすぎるように思う。

湯本座長

- ・現在は動物園がどういう方針で種を集めるか、という取捨選択という時代になっている。コレクションプランについて、説明をしてほしい。

和田課長，片山園長

(コレクションプランの説明)

- ・子供たちに人気のライオンについては悩んでいる。24歳で国内最高齢のナイル君が一頭になっている。
- ・群れで飼うほうが望ましいというネコ科であり、今後どうすべきか、真剣に悩んでいる。

湯本座長

- ・選択と集中という考え方が大事になっている一方で、動物園に行ったらライオンとゾウとキリンを見たい、という方にどう答えるか。
- ・市民にも、方針をきちんとわかりやすく示す必要がある。

池田委員

- ・皆さん同じ意見だと思うが、ナイル君を大切に飼った後、群れ飼いは厳しいのではないか。近隣に天王寺動物園とか王子動物園などライオンをたくさん飼っている動物園があるので、そちらでラリーなどで補えば良いと思う。
- ・展示していない意義をきちんと掲示すれば、理解は得られると思う。

松本委員

- ・同じ意見だ。専門学校生の調査結果では、動物園の考え方がわかると理解が得られるという傾向がある。きちんと考え方を伝えるとお客様の理解は得られる。虎の遊具の周辺で学生が調査を取った際には、狭い、かわいそうだという声も拾っている。ライオンをあスペースで群れで飼うと、同じ

ような意見が出ることも考えられる。

湯本座長

- ・委員みな同じ意見だと思うので、きちんと説明すれば、ライオンはやめて良いのではないか。

中道委員

- ・ライオンについての意見は同じだ。
- ・お客さんがどういうものを見たいかということでは、見る前のアンケートと見た後のアンケートは違う。2006 か 2007 年にアンケートを行なったが、**しっかりと比較して、残す種、繁殖を考える種を考えるべきだ。**
- ・アジアゾウを今後どう考えるかは大きな問題だ。4頭の集団で、オスがいます。20年後の繁殖の際、このスペースでいけるのか、大きな課題だと考えている。**動物園の今後を考えると、10年後20年後に管理できるかを考えるべきだ。**

湯本座長

- ・**動物園では、長い寿命の動物のことを考える必要がある。**その頃には、ライオン、かばがいなくなることになる。

福井委員

- ・ケニアで、群れで生活しているライオンを見たら、日本での群れでない状態はかわいそうだと思う。
- ・京阪神には3つの動物園があり、それぞれ特徴がある。**それぞれが連携してはどうか。**京都市動物園にはゾウがいる。3園で協力体制を持って、スペースの問題は協力体制の中でクリアしていく。動物園にはどれもいる、という時代ではない。ロードマップ的な長いスパンが大事だ。

湯本座長

- ・コレクションプラン以外で、他に気づいたところがあれば、意見を言ってほしい。

池田委員

- ・施策22について「必要な体制を整備」とあるが、内部の施策を進めるために、例えば環境教育を進めるために、動物園内部でチームを作るなどの動きがあれば教えて欲しい。

片山園長

- ・前回の委員会で、盛りだくさんの施策について、主語が何か、という指摘と、今の体制でやれるのかという同情をいただいた。昨年、京都市動物園、生き物・学び・センターで体制を充実できた。これは新たな動物園構想の売りとなる柱になるのではないか。内部的な人材育成も大事だが、**地球環境問題や生物多様性は、動物を身近に見る楽しい時間の中で知らず知らずに学べるような動物園にしたいと考えている。**近い将来、局の理解も得て、教育委員会や環境政策局との人的な交流も含めて、検討していくことを考えている。

松本委員

- ・施策4のSDGsについて、関西プラットフォームの分科会に参加してきた。前回の地域まるごと動物園の視点が薄い。これが施策5の国内外の教育の場に繋がれば良い。京都市動物園は、こんなことをやっているということが見えると良い。身近に感じることができる。施策4の部分と一緒にやれるように、共同とか楽しくやろうよというメッセージになれば良い。

湯本座長

- ・17の目標は関連している。何かを頑張るって何かを犠牲にしてということではない。SDGs, 生物多様性の中でも動物園を位置付けて考えていく必要がある。

森村委員

- ・環境教育については、27の施策に散りばめられているが、わかりにくい。キャッチーなものが必要だろう。新しいものを付加するというのではなく、今あるものを整理して、正しく評価してもらえように並び替えるということだ。
- ・入園者の何パーセントが環境教育を受けているか。このパーセントを上げることが大事だと思う。環境教育についてもコンセプトを出す必要があると思う。

湯本座長

- ・環境教育は、大人、子供ともに必要だ。どういう人をターゲットとするかも含めて検討してもらえればと思う。

(2) 増客対策について

坂本副園長

(集客について説明)

- ・アンケート調査の結果では、主力のお客様は変わっていない。半数以上がリピーターで、20%は5回以上来られている。
- ・70万人までは落ちていない。27年度は、これまで見てないから、新しくなったから、ゾウが来たから、という方々で、遠方からも、普段来られない方も来られたということだ。
- ・27年度以降は減っているが、初めての方が来なくなったからと考えられる。
- ・有料入園者については分類できていない。
- ・リピーター率が高い動物園と言える。

湯本座長

- ・今年の夏はどこの動物園も来園者が少ない。これは熱中症対策で外出を控えるように、という案内によるのではないかと考えている。

坂本副園長

- ・昨年に比べ、来園者は2割減となっている。暑かったことと、風評被害感も感じている。エアコンスペースや水遊びスペースは用意していた。上半期だけでは、昨年の8割を切るくらいだ。10月は去年より少し多い。

湯本座長

- ・他に感じられたことがあれば、発言してほしい。

池田委員

- ・アンケート結果を見て最初に思ったのが、大阪や神戸からの来園者が少ないのは分かるが、滋賀からはもっと来ても良いのではないかとことだ。滋賀の子供達に対しての開拓の仕方は、もう少しあるのではないか。
- ・昔東京に住んでいた時の話だが、上野動物園に老人が多くいらっしゃるので、不忍ロマンスというポスターを作ることを真剣に検討したことがある。今村委員が言われたように、狭いからお散歩コースとしてもアピールできる。また老人の方のボランティアで協力いただいてはどうか。
- ・海外の方の誘致については、オリンピックも控えているが、京都市動物園単独で行うのではなく、4園間連携事業として京都市まるごと博物館で誘致に繋げるほうが良いと感じた。

中道委員

- ・アンケートを見て、ややサンプルサイズが少なく感じた。また、アンケートをどういうふうにお願ひしたかも重要だ。積極的に答えた方だけのアンケートでは意味がない。またユニホームを着た方がアンケートをお願いした場合も良くない。10年前にアンケートをした際、誰が頼むかによってアンケートはだいぶ変わることがわかった。どういふ方がお願いしたか、どういふ状況だったかを知ったほうがより正確な分析ができる。
- ・アンケートの項目については、他の動物園に行かれたかどうかは聞いたほうが良い。
- ・動物については、動物そのものが楽しそうにしていたか、は動物をリスペクトするという観点を調べるには、大事な項目なので入れたほうが良い。

坂本副園長

- ・一昨年から広告代理店にお願いしており、その業者さんがアンケートを取っている。実際は学生のアルバイトを雇っているだろう。数が少ないのは予算の関係などがあるとは思いますが、n=100 でギリギリ成立していると思う。もう少し確度の高いアンケートということなら、予算を上げてnを増やす必要があるのかと思う。

湯本座長

- ・最近インターネットアンケートもあるので検討してはどうか。
- ・アンケート項目は大事なので、次回するときにはもう少し検討してはどうか。

中道委員

- ・来園者のグループについての項目が無い。家族、個人、カップルで来たかなども、確認すべきだ。

福井委員

- ・このアンケートには問題はあると思う。
- ・どこから来たかという問いに、兵庫県や大阪府が少ないのは意外と感じた。京都に来るなら寺社仏閣

というイメージなのだろう。

- ・動物園が岡崎にあるのはメリットである。雰囲気を楽しむという京都府立植物園には、白人系の方がたくさん来ており、雰囲気を楽しんでいる。動物園は岡崎という園地を逆手にとって、外国人とのマッチングを図る必要がある。造園の力に拠ると思う。
- ・アンケートはもう一度やったほうが良い。返却が良いのかインターネットがいいのかも検討してはどうか。対象には外国人も入ったほうが良い。また京阪神の方が岡崎を訪れたときに、動物園を訪れてくれるような道筋をつけられたら良い。

湯本座長

- ・施策 23 や 25 についての話題になっているが、具体的にどう展開すべきか。

松本委員

- ・アンケートの目的が何かを聞きたい。来園者の動向、集客につなげるか、動物が快適にしているかはお客さんがここで学んだことと体験との教育効果の両方必要だと思う。
- ・楽しかったとかの意見について、どういう理由か知りたい。具体的に、楽しかったとか触れ合えるとかはあるが、新たな発見があったとかがあったら、そこが重要だと思う。今までと違った体験や何か新しい自分を見つけたというような、引き出すことが教育には重要だと思う。5回も来る方はなぜなのかという理由を、アンケート項目に自由記述を入れて、分析する必要がある。

湯本座長

- ・アンケートについて、思い付きではないと思うが、もう少し検討が必要だ。
- ・写真を撮りに来られる方はリピーターだと思う。

森村委員

- ・全般に関わるが、マーケティングに力を注ぐべきだと率直に思う。n の数についても、2回実施したことについてもこれで十分か、という点は気になる。これまでの議論は、なるべく力を注がないようにという縮小やコストカットだったと思うが、この部分はイノベティブにやるべき部分だろう。マーケティングに力を注がないとこういう問題は解決されない。入園者数倍増とかV字回復ということが可能なのは甚だ疑問だ。お金をかければ良いというわけではない。外部のプロフェッショナルを活用すべきだ。経営にはプロがいる。掘り起こしをする。アンケートを聞いた範囲が京都市動物園の正しい評価か疑問だ。SNS などについては、どういう刺激をすれば良いか、ということ进行分析できる人が必要だ。マーケティングを革新的にやる必要がある。
- ・アンケートについては、ネガティブなコメントこそが重要だと思うが、それがあまりない。これから良くなっていくためには、今来ない人の意見や今来ている人が嫌だと思うことについて調べることが必要だ。

湯本座長

- ・情報収集して、分析し、その上で仕掛けることができるのがプロである。

藤井委員

- ・アンケートについては、テクノロジーを使うべきでは無いか。例えば、インターネットでは、自サイトにアクセス解析を導入すれば、どのイベントが人気があるか等は、各ページごとのアクセス数を見ればほぼ把握できる。動物園サイトにその場でアクセスしてもらってはどうか。あるいは、アンケート方式であれば、例えばGoogle アンケート等のクラウドサービスを利用し、その場でQRコードを読み取ってスマホで回答してもらえば、自動的にスプレッドシートで集計されたものを見ることもできる。経費も労力も少なくnを増やすことができる。それを園の人がやるのではなく、外注する。アンケート調査を広告系のところではなく、技術・スキル・経験のあるところに委託してはどうか。
- ・外国人の方は、100% SNS で情報を集めているが、一方で動物園の SNS アカウントが kyotoshidobutsuen というローマ字表記になっている。これでは外国人がアプローチできない。また京都市動物園の英語名は、kyoto city zoo で国際的に通じるのか。いずれにしても、外国人が zoo で検索して出て来ない公式アカウントは勿体無い。

湯本座長

- ・cityは重要ではないのではないかと。Kyoto zoo で良いのではないかと。
- ・インスタでどこで写真を撮っているかというの、調べてはどうか。

今村委員

- ・ここ1年くらい、京都市動物園が集客の工夫をされているのは伝わっていた。例えばスタンプラリーのハガキが毎回一緒ではなく、デザインが変わるようになった。これらの小さい努力は伝わって来るが、来てない方へのアピールが課題だ。その方法については客観的な方、プロの方に見てもらうのが大事だ。ずれた論点が入ってこないようにすべきだ。

澤邊委員

- ・経営上の問題意識から、これらのアンケート等をやっているのか。

片山園長

- ・柱の5番目は、正直な話として、半分は経営上の問題意識からだ。残りは、せつかく47億円かけて再整備できたので、もっとたくさんの方に楽しんで欲しい、動物への理解を深めて欲しいという考えからだ。

澤邊委員

- ・お金をもらえる人にたくさん来てもらわないといけない。動物を学べるというのは美しい話だが、餌代、人件費などは多く掛かっている。アンケートには、動物園に来たか、だけではなく、平安神宮に行ったか、なども入れる必要がある。例えば、以前はお正月3日間に、動物園は休んでいたが、色々意見を伝えた結果、開けてくれた。無料の人もいるが、来てもらわないと無料も有料も関係ない。そういう集客の努力は必要だ。京都市美術館で展覧会を2時間待っている間に動物園も見られるよう、入園券を配るとかも良いのではないかと。せつかく東側に出入り口を設けたので、地下鉄とか南禅寺とかの通路になるようにしてはどうか。便利であって、有益になる。學術のことはわからないが、経営のことを考えると、もっと周辺と連携してはどうかと思う。入ってもらう前提で、各施設にとって有益な連携プレーをしてはどうか。

湯本座長

- ・時間の関係で、議論が物足りない。検討会議はそのまま、時間に余裕がある方は懇談会などで、時間を決めてもっと議論してはどうか。アンケート、マーケティング、環境教育などの具体的な話は、2時間ではできない。その辺りは今後の第3回以降で改善してほしい。テーマを絞って、ある程度プランができるほうが良い。

池田委員

- ・マーケティングについて質問したい。アナログな人で老人とか主婦でPCを持っていない人も多い。アンケート結果でもテレビ、新聞を見て来る人は多いということだった。天王寺動物園には記者クラブがある。事務所が大きいこと、市の施設という面が大きいことはある。また25年前に上野動物園では、飲みニケーションで月1回懇談会で記者といろいろな話をしていた。そういう中で、記者に記事を書いてもらい、集客につながったこともある。京都市動物園では、記者との関わりはされているのか。

坂本副園長

- ・イベント時には広報発表資料を京都市の記者クラブで配布している。率直に言うと、市政記者クラブなので、動物園のイベントに興味を示す人もいるし違う人もいる。市政担当と動物園担当では記者が違う新聞社もある。そのため、取材をしてもらった記者に個人的に案内を送ることもある。

片山園長

- ・市政記者クラブでは公正に案内するが、ほとんど記事にはしてもらえない。日常的に信頼関係を気づきあげた記者とあつく語ることは大事だと思う。公設公営なのでテレビコマーシャルを出せない。記事にしてもらえるか、は重要だ。

湯本座長

- ・記事になるという点では、田中先生がいい研究を出すということも大事だ。

中道委員

- ・動物園のイベント、講演などは、市報にちょっと書いてあるのが比較的効果がある。新聞、テレビよりも効果がある。情報が少ないという点が良い。ネットにあまり関わらない層には良い媒体だ。さらにイベントに来られたら割安になるなどがあるともっと良い。
- ・京都市内には嵐山モンキーパークがある。ホームページの英語版はそれほど丁寧ではないが、ここ数年の海外のお客さんは非常に多い。理由は必ずしもはっきりしていないが、SNSが数珠繋ぎになっていることは挙げられる。海外の方が京都市動物園で何が良かったかSNSで発信しているのを分析してはどうか。モンキーパークでSNSを分析しているかどうかはわからないが、SNSの分析からヒントは得られるのではないか。

湯本座長

- ・私が住んでいる犬山市の城下町も、外国人観光客が増えてインスタ映えで生き返った。

藤井委員

- ・岡崎公園にはいろいろな施設がある中で、6割の人が動物園しか行っていない。これは非常に残念な結果だ。地域全体として捉えると、もっと可能性は広がるだろう。
- ・各施設の縦割り感が気になっている。よその領域に入ることを遠慮している。来場者にとっては関係ない。地域全体として取り組んで欲しい。

福井委員

- ・せっかく本多委員が入っておられるので、まずは平安神宮と連携してはどうか。できることから始めてはどうか。

藤井委員

- ・イチモンジタナゴをはじめとした琵琶湖・淀川水系の生態系保全の紹介をしてもらえれば良い。

澤邊委員

- ・条例で割引してはいけないという話を以前に聞いたが、まだ残っているのか。

藤井委員

- ・団体割引はできるはずだ。地下鉄一日乗車券の利用者割引もある。

澤邊委員

- ・連携プレーをしなくてはならない。
- ・個人的には、動物園からライオンがいなくなるのは残念で、寂しい。いい方法があれば良い。

湯本座長

- ・以上で本日の討議は終了したい。

北村局長

最後の挨拶

- ・ライオンについては議会でも質問が出ている。
- ・現在、決算議会をしているが、京都市動物園は4億円の赤字施設という見方をされている。市民の税金なのでそういう観点からも考えていかななくてはならないと思う。

山本課長

- ・次回は、委員の方全員は参加できないが、最も多く参加いただけるのは12/5(水)午前となっている。
- ・会議の開催時間や進め方については、事務局で検討して次回につなげたい。

次回日程：12月5日（水）午前 レクチャールームにて。